

理数科課題研究「科学的探究活動」に関する標準ルーブリック（生徒配布用、各グループ1枚）

- ・下のルーブリック表を見て、自分たちの研究が、1～5のどの基準レベルに達しているか自己評価する。（5つの観点それぞれを評価する）
- ・1つ上のレベルに達するためには、どうすればよいのかを確認し、今後の研究で実行する。
- ・評価は、8月（中間発表会）、3月（研究発表会）で実施する。

観点(上段) → 本質的な問い(下段) → 基準(上段) 徴候(下段) ↓	課題の設定		3. 調査計画の立案と実施	4. 情報収集と情報の評価	5. 結果からの考察
	1. 研究の意義づけ	2. 課題の具体化			
	研究の意義とはなにか?	よい研究課題とはなにか?	よい調査計画とはなにか?	情報をどう解釈できるだろうか?	どうすれば妥当な考察ができるだろうか?
	生徒たちの到達点を判断する主な評価資料： 実験ノート・ポートフォリオ・行動観察・論文・ポスター・ディスカッション 等				
5 基準 課題研究の質が特別優れているレベル	自分の研究課題の学術的価値や社会的価値、既存の前提を問う問いを設定している	妥当な評価が可能な目標や、環境的な制約の中で実行可能で検証可能な問いや仮説を立てている	実践から教訓を引き出し、必要な情報や手続きを身につけて、次の計画に活かせる	情報(実験・観測データ等)を目的に応じて適切に評価をした上で、考察に向けた示唆を与える形で解釈している	得られた結論から、より発展的な課題を見だし、次の探究のプロセスが見据えられている
徴候 一連の探究の手続きを理解し、省察をしながら次の段階を視野に入れて探究活動を行っている	○自分の研究課題が社会や学問の進展に寄与するものであることを口頭または文章において説明できる ○研究課題に関連する先行研究との違いが明確にされている	○取りうる手段を踏まえ、実施に評価可能な目標や検証可能な仮説が立てられている ○身近な物・実験材料などに注目し、検証可能な課題を設定した ○先行研究がある場合、それらと比較できる課題が設定できている	○現状で知識・技術不足があったときに、自ら情報を収集し、習得しようとする ○実施の都度、自分で振り返りをし、目的に応じて、計画を修正する	○データを緻密に分析し次の研究への発展または大きな発見の結論に至っている ○実験の失敗などから修正点を見だし実験デザインを直す ○別アプローチで得られた考察の妥当性を確かめようとしている	○自分が進めてきた探究の手法や考え方を振り返り、発展的な新たな課題を見いだしたり、その解決に向けたアプローチを考察したりしている
4 基準 課題研究の質が十分に満足できるレベル	自分の研究課題の学術的・社会的価値に触れて問いの意義を説明している	評価が可能な目標や検証可能な問いや仮説を立てている	先行研究等を踏まえ、妥当性のある方法を多面的・多角的に判断し、計画に取り入れている	情報(実験・観測データ等)を先行研究や既存の前提(概念枠組み・パラダイム等)を用いて合理的に解釈している	論理的な考察ができており、得られた結論の妥当性の評価がなされている
徴候 探究の手続きや一連の流れを理解しつつ、自分の活動を評価しながら探究活動を行っている	○課題研究に関連する先行研究が紹介されている ○自分の研究課題が社会や学問においてどのような位置づけにあるかを当該分野の話題を取り上げている △最終目標と、実現可能な実験をどのようにてらし合わせるべきか悩んでいる	○目標や仮説を、曖昧な言葉や単語を用いずに表現できている ○必要な定義がなされている ○緻密な仮説を立てている ○評価可能な目標か、検証可能な仮説を立てている ○数多くの実験をした上でそれを踏まえた仮説を立てている △環境的な制約等を念頭に問いや仮説を設定することはできない	○先行研究や既存の理論を参考に、妥当な調査方法を選択できている ○課題解決に必要な条件・精度・具体性を意識した計画が立てられる ○既存の複数の方法を評価し、自分の研究に合った方法を選択した ○既に得られている各種データと、自らの予想に整合性があることを確認している △考察等を踏まえて、発展的な研究に至るプロセスを提案することができない	○データの提示と解釈が正確に行われている ○有効数字、測定・系統誤差の評価・再現性の検討ができていない ○自分が選択した方法や測定法の精度を意識している △実験と理論式が結びついていない △[理論式への] 代入に終始している	○先行研究や既存の理論との比較の結果、進めてきた探究を振り返り、評価(仮説の採択、棄却や方法の不備等)し、次の課題を見だしている。 ○考察から新たな問題を解釈するための気づきがなされている △課題は見つけられているが、発展的な研究のプロセスまでは考えられない
3 基準 課題研究の質が満足できるレベル	他者に自分の課題研究の意義を説明できる	研究の目標を踏まえて、問いや仮説を設定できている	目的を明確にした計画を立てて、見通しをもった計画となっている	情報(実験・観測データ等)を目的に合わせてまとめている	論理的な考察がされている
徴候 個々の探究の手続きを理解して探究活動を行っている	○どのような社会的課題・学術的課題を解決しようとする研究であるかということが表現されている ○自分自身の研究内容を表現している ○社会的課題を解決しようとしている △考察の方向と研究課題の方向が一致していない △個々の課題をこなすことに終始している	○曖昧な語を含んでいるものの、研究を通じて明らかにしたいことを目標や仮説といった形で表現できている ○仮説は立てている △検証可能な仮説や問いではない	○使用できる教材・機器・締め切りなどを考慮できる ○具体的な手法が記載できる ○実験系の作り方を検討している ○目的にあった装置を作る必要性に気づいている △どうすれば正確な検証ができるかよく分かっていない △立式・パラメータ等の意味を実際の操作と結びつけて捉えていない △何をもちって期待した結果が得られたと評価できるのかが分からない	○実験・観測の条件などによってデータの整理ができていない ○データから、一定の合理的考察に結びつけていない ○研究における定義について考えはじめていない ○データを見ながら、どこに着目すべきかを見つけていない ○実験方法の記録をとっていない ○再現性よく、比較的バラツキのおさえられたデータを得ていない △グラフの解釈に困る	○結果から事実に基づく論理的思考ができていない(正しい結果が間違った結果かは問わない) ○データをしっかりとまとめられた △対照実験で差が出た原因の特定をすることができない △先行研究の実験内容との比較に悩んでいる
2 基準 課題研究の質がやや改善を要するレベル	自分の研究に漠然とした意義づけができていない	問いをたてることができている	作業としての計画が立てられ、実施している	入手した情報(実験・観測データ等)を示している	論理的な考察が不十分である
徴候 個々の探究の手続きを意識して探究活動を行っている	○自分の興味や関心に基づいた問いを立てられている ○防災や環境問題といった問題意識から課題を設定しようとしている △問いから探究すべき方向が導かれない	○自分自身の疑問や、知りたいことを表現できている ○対象に関して自分自身で問いを立て、目的を定められている △抽象的な問いを持つたが、どうアプローチをしてよいかかわからないほど曖昧な問いである △問いが曖昧で具体的に何をしたらいいかわからない	○調査の手順を明確にしている ○研究手法と手続きを示している ○実施しやすい条件での実験・シミュレーションができていない ○着目するパラメータを決める △着目するパラメータ以外が制御できていない △やりたいことはあるが、先行き不透明な状況	○複数のデータを得ている ○データがとれるようになった △記録にとどまり、合理的なまとめができていない △サンプリングの条件が揃っていない △データの「特徴とは何か」でもめることがある △信用性のあるデータがない	△結果について考察しているが、多面的でない △根拠が不十分である △結果から読み取れていない飛躍した考察がなされている △解釈されたデータを考察でどう扱うのか分からない
1 基準 課題研究の質が大幅な改善を要するレベル	自分自身で研究の意義を見出せない	問いを出せない	抽象的な計画にとどまり、実施が困難である	入手した情報(実験・観測データ等)をまとめていない	論理的な考察ができていない
徴候 探究の手続きが分からず、探究を進められない	△自分自身の研究が、自分自身の興味と離れている △研究分野は決まったが自分自身が問題意識をもっていない	△自分自身の疑問や知りたいことなどが何なのか表現されていない △何を対象としてよいかかわからない	○すでに知っている手法を利用して計画を立てている ○最低限の道具を用意し、実験にとりかかる △実際の行動手順が見えない抽象的な語を多く含む計画を立てる △行動手順が見えていない	△定量的なデータを得られるにも関わらず、定性的なデータしか示せていない △特徴を抜き出せない △一般化できない △実験操作の基本的な手法を理解していない	△結果と考察が分離できず、結果のみとなる △予想通りの結果が得られていない場合に「失敗した」で終わる △試しにやったら(予備実験)、上手くいったものの、それで満足する

「徴候」・・・探究活動における具体的な状態の「例」を示しています。この「徴候」を参考にして、自分たちの研究レベルを決めてください。

生徒自己評価 / 担当教員評価

上の「ルーブリック表」の基準を参考にして、1～5の評価を記入する。担当：

先生

グループ番号 _____ グループ代表 _____ 年 組 番・氏名 _____ 研究テーマ _____

観点	課題の設定		3. 調査計画の立案と実施	4. 情報収集と情報の評価	5. 結果からの考察	評価者サイン(印)
	1. 研究の意義づけ	2. 課題の具体化				
5段階評価	1回目(8月)	/	/	/	/	
	2回目(3月)	/	/	/	/	

指導担当の先生へのお願い 斜線の左側に生徒達の自己評価が書き込まれていることを確認してください。上の「ルーブリック表」の基準を参考にして、斜線の右側に先生の評価を記入してください。生徒達に評価の理由を説明し(生徒達の自己評価との比較含め)、後半に取り組むべきことを話し合っ、表の一番右にサイン(または押印)して生徒達に返却し、カリキュラム室の〇〇に提出するようご指導ください(〆切〇月〇日)。※担当先生との話し合いの回数も評価基準です。話し合いの際には話し合いの記録カード(探究・研究カルテ)にもご記入、サイン願います。

※3月の評価の際には別途ご連絡する予定です。

理数科課題研究「数学的探究活動」に関する標準ルーブリック（生徒配布用）

- ・下のルーブリック表を見て、自分たちの研究が、1～5のどの基準レベルに達しているか評価する。
- ・5つの観点それぞれを評価する。 ※調査計画の立案と実施については（先行研究あり）と（先行研究なし）のどちらかの評価でよい。
- ・1つ上のレベルに達するためには、どうすればよいのかを確認し、今後の研究で実行する。
- ・評価は、8月（中間発表会）、3月（研究発表会）で実施する。

観点(上段) → 本質的な問い(下段) → 基準(上段) 徴候(下段) ↓	1. 問の設定の妥当性・独創性	調査計画の立案と実施		4. 証明方法の計画の立案と実施	5. 証明の論理性・独創性
		2. (先行研究あり)	3. (先行研究なし)		
	よい数学的な問いとは何か？	どこまでが既知でどこからが未知なのか？		証明の核はなにか？	
	生徒たちの到達点を判断する主な評価資料： 実験ノート・ポートフォリオ・行動観察・論文・ポスター 等				
5 基準 課題研究の質が特別優れているレベル	周囲を納得させる研究の価値（個人の価値を超えたもの）を説明できる。見通しがあり、検証できる絞り込んだ問いを立てられている。	先行研究を理解し、活用することで新たな知見を生み出し、大きな発見につながった（議論が十分になされ、創造的な発見につながっている）	発展させた研究内容から新たな知見を見だし、大きな発見につながった（議論が十分になされ、創造的な発見につながっている）	取組から教訓を引き出し、必要な知識や研究手法を自ら得て次の計画に活かせる	論理的な証明ができておりかつ独創的な発想で証明できている
徴候 一連の探究の手続きを理解し、省察をしながら次の段階を視野に入れて探究活動を行っている	○研究成果が社会や学問の進展に寄与するものである ○従来の学説や経験、これまでの研究成果を踏まえて証明可能な問いが立てられている	○研究が独創性のある大きな発見につながるものとなっている（議論が繰り返しなされ、明らかに大きく研究が進んでいくことが分かる）	○先行研究がないことを明らかにし、自分（たち）で考えた研究内容を分析し発展させ、大きな発見に至っている（議論している）	○現状で知識や理解不足があったとき、自ら情報を収集し、自らのアイデアで証明できている ○取組のなかでこれまでの内容を振り返り計画的に道筋を立てて証明に至っている	○示された証明から、他への波及効果のある新しい価値への提案ができている
4 基準 課題研究の質が十分に満足できるレベル	他者に研究の価値を証明できる。見通しのある問いを立てられる。研究の動機・目的が明瞭である	先行研究を調べ、その内容を理解し、自らの研究に発展的に活かしている（議論がよくなされている）	自分（たち）で考え研究を進展させている（議論し）実験している	目的を明確にした計画を立て、見通しをもって研究をデザインできる	論理的な証明ができています
徴候 探究の手続きや一連の流れを理解しつつ、自分の活動を評価しながら探究活動を行っている	○自分の研究課題が社会や学問の進展にどう寄与するかを考えている ○自分の知識や経験をもとに証明可能であるような問いが立てられている	○先行研究の内容を理解し、この内容を正確に活用することで、自らの研究を進展させている（議論ができており、研究内容が大きく進展した）	○先行研究がないことを明らかにし、自分（たち）で考えた研究内容を分析し発展させている（議論している）	○証明するために必要な補題や事柄を、道筋をつけて考えている	○先行研究や既存の理論との比較がなされている ○結論へと至る論理的な思考がよくなされている
3 基準 課題研究の質が満足できるレベル	研究の価値を個人レベルで理解している 研究の動機・目的が明瞭である	先行研究を調べ、その内容を理解し、研究に活かしている（議論ができています）	先行研究がないことを明らかにし、自分（たち）で考え研究を行っている（議論し）実験している	自分の計画の不十分な点に自ら気づき、計画を変更できる（具体性、証明の方針の観点）	証明に論理的な飛躍がある
徴候 個々の探究の手続きを理解して探究活動を行っている	○自分の研究課題の意識に自覚的である ○問いが具体的である（研究の目的・動機がはっきり示されている）	○先行研究を調べ、その内容を理解し、研究に活かしている（議論ができており、研究内容に深まりがある）	○先行研究がないことを明らかにしている ○自分（たち）で考え研究を行う活動の過程がわかる	○自ら証明方法の誤りに気づき改善に取り組んでいる	○結論へと至る論理的な思考ができています
2 基準 課題研究の質がやや改善を要するレベル	研究の価値は十分に理解していないが、問いを立てることができている	先行研究を調べるにとどまっている（議論が不十分である）		計画は立てているが、証明方法が不十分なまま取り組んでいる	アプローチはみつげるが、実行していない
徴候 個々の探究の手続きを意識して探究活動を行っている	○自分の興味や関心に基づいた抽象的な問いは立てられている △具体的にどういふ結果が得られたら、その間に答えられたことになるかが不明瞭である △研究の目的・動機が示されていない	○先行研究を調べた △先行研究と問との関連が見えていない（話し合いはできているが、そのことで内容に深まりが見られない）		△証明の道筋を十分に考えていない △このことが示せば良いという確信がない	△結論へと至る論理が、根拠がなく不十分である
1 基準 課題研究の質が大幅な改善を要するレベル	問を出せない	先行研究を調べていない（議論ができていない）		抽象的な計画にとどまり証明は困難である	アプローチをみつげていない
徴候 探究の手続きが分からず、探究を進められない	○単語レベルのテーマがある △何を対象として良いかわからない △何をしようかわからない △抽象的 △したいことがない △調べる対象が広すぎる	△先行研究の手続きがとれていない（議論ができていないので個人の考えとなっている）		△「～を示す」「～を確かめる」というように、実際の手順が見えない計画を立てる	△結論へと至る道筋が曖昧である △論理が飛躍している

「徴候」・・・探究活動における具体的な状態の「例」を示しています。この「徴候」を参考にして、自分たちの研究レベルを決めてください。

生徒自己評価 / 担当教員評価

上の「ルーブリック表」の基準を参考にして、1～5の評価を記入する。担当：

先生

グループ番号 _____ グループ代表 _____ 年 組 番・氏名 _____ 研究テーマ _____

観点	1. 問の設定の妥当性・独創性	調査計画の立案と実施		4. 証明方法の計画の立案と実施	5. 証明の論理性・独創性	評価者サイン（印）
		2. (先行研究あり)	3. (先行研究なし)			
5段階評価	1回目 (8/27)	/	/	/	/	
	2回目 (3月)	/	/	/	/	

指導担当の先生へのお願い 斜線の左側に生徒達の自己評価が書きこまれていることを確認してください。上の「ルーブリック表」の基準を参考にして、斜線の右側に先生の評価を記入してください。生徒達に評価の理由を説明し（生徒達の自己評価との比較含め）、後半に取り組むべきことを話し合っ、表の一番右にサイン（または押印）して生徒達に返却し、カリキュラム室の長山に提出するようご指導ください（〆切〇月〇日）。※今後、担当先生との話し合いの回数も評価基準です。話し合いの際には話し合いの記録カード（探究・研究カルテ）にもご記入、サイン願います。

※3月の評価の際には別途ご連絡する予定です。

生徒へ

上の「ルーブリック表」の基準を参考にして、斜線左側に1～5の評価を記入し、指導担当の先生に、ポスター原稿の保存場所を知らせてから提出する。その際、（または可能な時に）今後の目標や予定についての相談を行う。担当先生のサイン（または印）をもらったら、カリキュラム室〇〇に提出。（〇/〇締め切りだが、事前に提出して、〇/〇は活動に使うことが望ましい）。

普通科2年 「課題探究用ルーブリック」(各グループ1枚)

「ルーブリック」とは、探究活動の到達度を観点とレベルで表形式に表したものです。このルーブリック表を見て、自分たちの研究が、1～5のどの基準レベルに達しているかを判断し、1つ上のレベルに達するためには、どうすればよいのかを担当の先生とともに確認して、今後の研究で実行してください。

この評価は、8月(中間発表会)と3月(研究発表会)で実施します。次回は1つでもレベルが上がることを目標に取り組みましょう。

観点 レベル	課題(研究テーマ)の設定		3. 調査計画の立案と実施	4. 情報収集と情報の評価	5. 結果からの考察
	1. 研究の意義づけ	2. 課題の具体化			
	研究の意義とはなにか?	よい研究課題とはなにか?	よい調査計画とはなにか?	情報をどう解釈できるだろうか?	どうすれば妥当な考察ができるだろうか?
5 基準 課題探究の質が特別優れているレベル	自分の研究課題の学術的価値や社会的価値、既存の前提を問う問いを設定している	妥当な評価が可能な目標や、検証可能な見通しのある問いや、絞り込んだ仮説を立てている	実践から教訓を引き出し、必要な情報や手続きを身につけて、次の計画に活かせる	得られたデータから新たな知見を生み出し、次の発展に向けて大きな発見に繋がった	得られた結論から、より発展的な課題を見いだし、次の探究のプロセスが見据えられている
徴候 一連の探究の手続きを理解し、省察しながら次の段階を視野に入れて探究活動を行っている	○自分の研究課題が社会や学問の進展に寄与するものであることを口頭または文章において説明できる ○研究課題に関連する先行研究との違いが明確にされている	○従来の学説や経験、これまでの研究成果を踏まえて検証可能な仮説が立てられている ○先行研究がある場合、それらと比較できるような課題が設定できている	○現状で知識・技術不足があったときに、自ら情報を収集し、習得しようとする ○実施の都度、自分で振り返りをし、目的に応じて、計画を修正する	○データを緻密に分析し次の研究への発展または大きな発見の結論に至っている ○別アプローチで得られた考察の妥当性を確かめようとしている	○自分が進めてきた探究の手法や考え方を振り返り、発展的な新たな課題を見いだしたり、その解決に向けたアプローチを考察したりしている
4 基準 課題探究の質が十分に満足できるレベル	自分の研究課題の学術的・社会的価値に触れて問いの意義を説明している	評価が可能な目標や検証可能な問いや仮説を立てている	先行研究等を踏まえ、妥当性のある方法を多面的・多角的に判断し、計画に取り入れている	得られたデータを先行研究や専門用語を用いて合理的に解釈している。	論理的な考察ができており、得られた結論の妥当性の評価がなされている
徴候 探究の手続きや一連の流れを理解しつつ、自分の活動を評価しながら探究活動を行っている	○研究課題に関連する先行研究が紹介されている ○自分の研究課題が社会や学問においてどのような位置づけにあるかを当該分野の話題を取り上げている △最終目標と、実現可能な実験をどのようにてらし合わせるべきか悩んでいる	○評価可能な目標や、検証可能な仮説を立てている ○数多くの実験をした上でそれを踏まえた仮説を立てている △先行研究との比較ができる課題の設定になっていない △環境的な制約等を念頭に問いや仮説を設定することはできない	○課題解決に必要な条件・精度・具体性を意識した計画が立てられる ○既存の複数の方法を評価し、自分の研究に合った方法を選択した ○既に得られている各種データと、自らの予想に整合性がある △考察等を踏まえて、発展的な研究に至るプロセスを提案することができない	○データの提示と解釈が正確に行われている ○有効数字、測定・系統誤差の評価・再現性の検討ができてきている ○自分が選択した方法や測定法の精度を意識している △実験と理論式が結びついていない	○先行研究や既存の理論との比較の結果、進めてきた探究を振り返り、次の課題を見いだしている。 ○考察から新たな問題を解釈するための気づきがなされている △課題は見つけられているが、発展的な研究のプロセスまでは考えられない
3 基準 課題探究の質が満足できるレベル	他者に自分の課題研究の意義を説明できる	研究の目標を踏まえて、問いや仮説を設定できている	目的を明確にした計画を立てて、見通しをもった計画となっている	情報(統計的データ・実験・観測データ等)を目的に合わせてまとめている	論理的な考察がされている
徴候 個々の探究の手続きを理解して探究活動を行っている	○どのような社会的課題・学術的課題を解決しようとする研究であるかということが自覚できている △考察の方向と研究課題の方向が一致していない △個々の課題をこなすことに終始している	○研究を通じて明らかにしたいことを目標や仮説といった形で表現できている ○仮説は立てている △検証可能な仮説や問いではない △仮説を検証する方法が見つからない	○目的を達成するための具体的な手法が記載できる ○目的にあった装置を作る必要性に気づいている △どうすれば正確な検証ができるかよく分かっていない △何をもちて期待した結果が得られたと評価できるのかが分からない	○実験・観測の条件などによってデータの整理ができてきている ○データから、一定の合理的考察に結びつけている ○データを見ながら、どこに着目すべきかを見つけている ○実験方法の記録をとっている △グラフ化できていても解釈に困る	○結果から事実に基づく論理的思考ができてきている(正しい結果か間違った結果かは問わない) ○データをしっかりまとめられた △対照実験で差が出た原因の特定をすることができない △先行研究の実験内容との比較に悩んでいる
2 基準 課題探究の質がやや改善を要するレベル	自分の研究に漠然とした意義づけができてきている	問いをたてることができている	作業としての計画が立てられ、実施している	入手した情報(統計的データ・実験・観察データ等)を示している	論理的な考察が不十分である
徴候 個々の探究の手続きを意識して探究活動を行っている	○自分の興味や関心に基づいた問いを立てられている ○社会的課題を意識して課題を設定しようとしている △問いは立てられたが、どのような結果が得られれば、その問いに答えたことになるのかが不明瞭	○自分自身の疑問や、知りたいことを表現できており、目的も定められている △抽象的な問いを持たせたが、具体的に何をしたらいいかわからない △仮説が立てられていない	○調査・実験の手順が明確である ○実施しやすい条件での実験・シミュレーションができてきている △やりたいことはあるが、先行き不透明な状況 △実験が失敗したときに、あらたな計画が立てられない	○複数のデータを得ている ○データを収集できている △データを収集しただけで、合理的なまとめができていない △信用性のあるデータがない △サンプリングの条件が揃っていない	△結果について考察しているが、多面的でない △根拠が不十分である △結果から読み取れていない飛躍した考察がなされている △解釈されたデータを考察でどう扱うのか分からない
1 基準 課題探究の質が大幅な改善を要するレベル	自分自身で研究の意義を見出せていない	問いを出せない	抽象的な計画にとどまり、実施できるか見通せていない	入手した情報(統計的データ・実験・観察データ等)をまとめている	論理的な考察ができていない
徴候 探究の手続きが分からず、探究を進められない	△自分自身の研究が、自分自身の興味と離れている △研究分野は決まったが自分自身が問題意識をもっていない	△自分自身の疑問や知りたいことなどが何なのか表現されていない △何を対象として良いかわからない	○すでに知っている手法を利用して計画を立てている △実際の行動手順が見えない抽象的な語を多く含む計画を立てる △行動手順が見えていない	△サンプルを1つしかとらない △必要なデータを収集できていない △実験操作の基本的な手法を理解していない	△結果と考察が分離できず、結果のみとなる △試しにやったら(予備実験)上手くいったものの、それで満足する

「徴候」・・・探究活動における具体的な状態の「例」を示しています。この「徴候」を参考にして、自分たちの研究レベルを決めてください。

生徒自己評価 / 担当教員評価

生徒へ

上の「ルーブリック表」の基準を参考にして、斜線左側に1～5の評価を記入し、指導担当の先生に、ポスター原稿の保存場所を知らせてから提出する。その際、(または可能な時に)今後の目標や予定についての相談を行う。担当先生のサイン(または印)をもらったなら、カリキュラム室〇〇に提出。(〇/〇締め切りだが、事前に提出して、〇/〇は活動に使うことが望ましい)。

担当

先生

グループ番号 _____ グループ代表 _____ 年 組 番・氏名 _____ 研究テーマ _____

観点	課題の設定		3. 調査計画の立案と実施	4. 情報収集と情報の評価	5. 結果からの考察	評価者サイン(印)
	1. 研究の意義づけ	2. 課題の具体化				
5段階評価	1回目(8月)	／	／	／	／	
	2回目(3月)	／	／	／	／	

指導担当の先生へお願い

斜線の左側に生徒達の自己評価が書きこまれていることを確認してください。上の「ルーブリック表」の基準を参考にして、斜線の右側に先生の評価を記入してください。生徒達に評価の理由を説明し(生徒達の自己評価との比較含め)、後半に取り組むべきことを話し合っ、表の一番右にサイン(または押印)して生徒達に返却し、カリキュラム室の〇〇に提出するようご指導ください(※切〇月〇日)。

※担当先生との話し合いの回数も評価基準です。話し合いの際には記録表(探究・研究カルテ)にも簡単な内容の記入、サインをお願いします。

※3月の評価の際には別途ご連絡する予定です。